

● Photo sketch ●



2/26 歴史に思いをはせてサイコロ振ろう

江戸から明治時代にかけて、中山道と名古屋城下を結ぶ庶民の道として栄えた下街道。沿線5市の観光ボランティア団体などで結成する下街道沿道地域活性化連絡協議会（下街道サミット）が、史跡や歴史に関心を持ってもらおうと“下街道双六”を製作しました。すぐろくの表面は、猫の旅人が伝馬町札の辻（名古屋市）から8つの宿場町を通り、槇ヶ根追分（恵那市）を目指す40マスのゲームで、裏面は名所の詳しい解説付き。皆さん、楽しく知識を広げてください。土岐たび案内所（☎1123）のみの販売です。



東濃看護専門学校の卒業式

3/1 7 今日からスタート 全ては患者さんのために

土岐医師会准看護学校と東濃看護専門学校で卒業式が行われ、准看護学校では2年間の課程を修了した30人、東濃看護専門学校では3年間の課程を修了した31人が、夢と希望に向かって巣立ちました。今後は各医療機関に就職したり、進学したりするなど、思い描く道に向かって歩んで行くとのこと。生徒らは「患者の心に寄り添い、誠実に向き合いたい」「目指す看護師像に向かい日々努力していきたい」などと決意をあらわにしていました。



3/10 美しい歌声にブラボー！

下石公民館でスプリングデュオコンサートが開かれ、観客約140人が美しい歌声に酔いしれました。アマチュアとして活動する男性テノール歌手と女性ソプラノ歌手が、ピアノの生演奏に合わせて「千の風になって」など13曲を披露。途中、観客席から「ブラボー！」という歓声が上がリ、ムードは最高潮に。最終曲が終わると大きな拍手とアンコールが沸き上がり、全員で「木綿のハンカチーフ」の大合唱となりました。



3/10 各分団の連携に余念なし

「春の全国火災予防運動」にちなみ災害時の連携を強化するため、市消防団北部方面隊（土岐津・肥田・泉分団）が浅野緑地公園で、南部方面隊（下石・妻木・駄知・濃南分団）が杉焼池周辺で合同訓練を行いました。北部方面隊では、夜間の大規模林野火災を想定し団員63人が出動。土岐川から水をくみ上げ、約100m先の火点に目掛けて放水し動きを確認しました。同隊長は「今日の訓練を活動に役立ててほしい。いつでも出動できるように日頃から備えよう」と団員を激励しました。

2/22 28 チャレンジデー ひとつ成長したね

濃南小学校と妻木小学校の放課後教室で、豊かな感性を育もうと、講師を招き日頃体験できない活動にチャレンジしました。濃南小では、1～6年生21人が参加。ドローンが最先端技術であることやどんどん進化していることを習った後、校庭で講師と一緒にドローンを飛ばし空撮を試みました。ドローンが上空80メートル程に上昇すると、児童らは大きく手を振ったり追い掛けたりして大喜び。撮った映像を見ると「こんな高いところからの映像は見た事がない」「荷物を運ぶことにも役立てられるのでは」などの感想を話してくれました。



妻木小学校

3/2 ドキドキするよ 土岐のミライ

まちの魅力をつくり出す仲間が会ったり、それぞれの活動が一つになったらもっと楽しく、もっと豊かな未来につながるのでは。そうした思いから始まった大交流会「ときどきトークン」。4回目となった今回は、生まれ変わった庁舎の多目的スペースで開催されました。今回、新たに「ふるさとを感じられる暮らし」をテーマに、観光ガイドブックに載っていない市内の魅力を発掘し、土岐に縁のある人や訪れる人にも土岐を“ふるさと”として感じてもらうとする新プロジェクトも加わり、計17団体・110人が参加。地域活動に積極的に参加し、ふるさとと共に生きる土岐津中学校の活動発表も行われました。参加者は「自分の世界をもっと広げたいと感じた」「4回目の参加。それぞれの活動を結べば、もっと大きな魅力にできると思う」などと熱く語ってくれました。皆さん、一緒に活動し土岐の暮らしを盛り上げませんか。問い合わせは、まちづくり推進課（☎1207）まで。



濃南小学校

妻木小では1・2年生28人が参加。土岐市生活学校から講師を招き、資源について理解を深めました。講師らは牛乳パックからトイレトーパーにリサイクルできることや、児童らの鉛筆に書かれたエコマークを見本に、環境ラベルについて分かりやすく説明。児童らは「ノートは、使い終わっても資源ごみに出せば生まれ変わるね」と学びを深め、物を大切にする気持ちを育てていました。

